

日本鉄鋼協会 第184回秋季講演大会にて研究成果を発表いたしました

2022年9月21日（水）～23日（金）に福岡工業大学で開催された、一般社団法人日本鉄鋼協会の第184回秋季講演大会で下記2件の研究結果の報告を行いました。

1. 「焼入マルテンサイト鋼における自己焼戻しの定量評価 [1]

自己焼戻しを受けていない焼入れマルテンサイト鋼における真の硬さの推定」について

<研究メンバー>

ネツレン： 日山洋平、井戸原修、三阪佳孝、高木節雄

九州大学： 土山聡宏（教授）

<概要>

焼入マルテンサイト鋼の硬さは、鋼に含まれる炭素量の増加とともに高くなるが、Ms点が高い低炭素鋼（C<0.4%）では、マルテンサイト変態後に自己焼戻しにより、硬さが低下します。焼戻しの程度は定量的に評価できるため、炭素量0.6%以下の鋼を用いて、自己焼戻しの影響を受けていない焼入マルテンサイト鋼の真の硬さを推定する方法を提案しました。

2. 「焼入マルテンサイト鋼における自己焼戻しの定量評価 [2]

焼入マルテンサイト鋼の硬さの推定方法」について

<研究メンバー>

ネツレン： 井戸原修、日山洋平、三阪佳孝、高木節雄

九州大学： 土山聡宏（教授）

<概要>

炭素量0.6%以下の焼入マルテンサイト鋼の自己焼戻しによる硬さを、自己焼戻しを受けていない焼入マルテンサイト鋼の真の硬さと焼入時の冷却曲線から炭素の拡散面積を求めることにより推定する方法を提案しました。

* 本件に関するお問い合わせ：

研究開発本部

材料技術部

Tel: 0463(55)7853

井戸原修